

## グループ会社での取組み

国内グループ会社

海外グループ会社

### 国内グループ会社

#### 第一生命情報システム株式会社

第一生命情報システムは第一生命グループ唯一のIT&事務サービス企業です。

第一生命の本社・支社・営業オフィス合わせて1,300以上の拠点から1日190万件にものぼるオンライン処理や年間1,000万件もの事務処理を遂行しています。

お客さまに安心をお届けするために常にPDCAサイクルをまわして業務改革し続けていますが、先般発生した情報事故を踏まえ、全社一丸となってさらに取組みを強化してまいります。具体的には、業務上のリスク・課題を明確化したうえで業務改善につなげる「社内業務の徹底的な見える化」等を推進してまいります。

社会貢献活動では、安心して暮らしやすい生活・社会作りの力になるために、地域に密着した継続的な活動を行うことで社会的責任を果たしていきます。「足柄上地区少年少女駅伝競走大会(神奈川県)」では1994年の第1回大会から協賛会社としてタイムの集計や参加賞・商品の提供など全面的な支援を行っています。また、献血活動にも毎年多くの社員が協力しています。その他清掃ボランティアや各種募金活動への協力など積極的に行っています。

■ 第一生命情報システムのCSR詳細取組情報

#### 第一フロンティア生命株式会社

第一フロンティア生命では、全国の銀行や証券会社などの金融機関を通じて、一時払の貯蓄性保険を販売しています。創業以来多くのお客さまにご支持いただき、2013年度末の保有契約件数は50万件を超えました。

当社は、ご契約いただいているお客さまのニーズに迅速かつ確実に対応するため、お客さまサービス体制の強化に取り組んでいます。一例として、コールセンターにおいては、オペレーターの人員を増やすだけでなく、お客さま対応の質の向上を常に念頭に置き、指導員の養成や育成体系の強化に向けた取組みを継続的に進めています。また、保全・支払所管においては、2014年度より満期対応専門のチームを結成いたしました。本格的な満期の到来は未だ先となりますが、早期に専門チームを立ち上げることで、件数の増加時においても万全のお支払い対応ができるよう、将来を見据えたノウハウの蓄積・事務体制の構築を行っています。

このように、当社では、お客さま満足の創造に向けた絶えざるサービス品質の向上に努めています。

#### 株式会社第一生命経済研究所

第一生命経済研究所は、経済のほか生活・健康・政策など、多様な分野で研究に取り組むシンクタンクです。

当該研究所は、第一生命グループの情報発信・政策提言・コンサルティング機能の充実を目的とした調査・情報提供・職員教育を行っていますが、当該研究所の研究成果は、定期刊行物「第一生命経済研レポート(月刊)」、「ライフデザインレポート(季刊)」やホームページに掲載され、第一生命グループ以外にも広く社会に公開しています。

また、当該研究所では、テレビ・新聞・雑誌への出演・出稿、書籍執筆のほか、経済などに関する講演会や、企業の健康経営を支援する「ウェルライフセミナー」、定年後の生活設計をアドバイスする「洋洋人生のススメ」などの各種セミナーを多数開催しており、様々な機会を通じて社会に情報を発信するよう努めています。

## グループ会社での取組み

国内グループ会社

海外グループ会社

### ○ 海外グループ会社

- ▶ 第一生命ベトナム
- ▶ TAL
- ▶ パニン・第一ライフ
- ▶ スター・ユニオン・第一ライフ
- ▶ オーシャンライフ

#### 第一生命ベトナム

2007年1月、日本の生命保険会社として初めてベトナムに進出しました。ベトナムの生命保険市場全体が急成長を遂げる中で、第一生命ベトナムは市場をさらに上回る伸展を遂げており、2013年度収入保険料は当社買収前の2006年度と比べて約5倍、マーケットシェアも2006年度の4.4%から、2013年度は8.0%に拡大しています。

第一生命ベトナムは生命保険事業の展開とともに社会貢献活動にも力を入れており、経済的理由から手術を受けることのできないベトナムの白内障患者に手術を無償提供する活動を2008年度より当社と協同で支援しています。この取組みを通じて、これまでに約3,000名の白内障患者を支援しています。

この他にも、災害地域支援活動、献血活動、山岳地方への衣服の寄付などに継続して取り組んでいます。

こうしたベトナム経済・社会への貢献が高く評価され、2013年度においてベトナム政府より、ビジネス、社会貢献、環境保護、教育などの分野で顕著な取組みを実施した法人又は個人に対し贈られる「ベトナム首相賞」を受賞したほか、2013年11月には24校の学校に紫外線殺菌機能を備えたろ過装置を寄付した活動が評価され、アジアインシュアランスレビュー誌の選ぶ「CSR賞」をベトナムの生損保含めた保険会社で初めて受賞しました。



白内障患者への支援

▶ ページの先頭へ

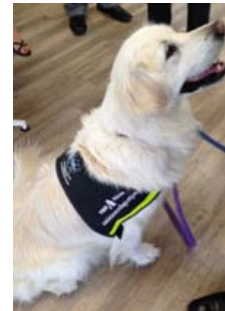
**TAL**

2011年5月、当社の関連会社であったタワー(Tower Australia Group Limited)を、友好的な買収手法により完全子会社とし、2011年6月にTAL Limitedに社名変更しました。2012年6月には同社の機能を持株会社であるTAL (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に移管し、より効率的な経営を図っています。さらに、2013年10月には、オーストラリアのオンライン・ブローカーであるNFSグループを買収・完全子会社化するなど、販売チャネルの強化を推進し、持続的な企業価値の向上に取り組んでいます。

TALはスポンサーシップならびにコミュニティパートナーシップの行動指針である「A Gift for Life」プログラムを定め、この一環として、オーストラリア固有の動植物を描いた貴重な絵画などの一般公開、各種チャリティへの寄付(介助犬育成、皮膚がん研究支援、パラリンピック支援)や乳がん研究支援を目的としたチャリティマラソンへの協賛など、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。



絵画等の一般公開



介助犬育成



皮膚がん研究支援



乳がん研究支援を目的としたチャリティマラソン

また、ESG(環境Environment・社会Society・ガバナンスGovernance)活動にも力を入れて、環境への取り組みとしては、社内プリンターの両面印刷自動設定、アースアワー(WWFの主催する世界約150カ国の人々が同じ日の同じ時刻に電気を消し、地球温暖化を止めたい・地球環境を守りたいという思いを分かち合うイベント)への参加やセンサーライトの導入、ごみの積極的なリサイクル、Web会議やボイスチャットを活用した会議運営による出張抑制などに取り組んでいます。

さらに、フレキシブルな勤務制度の導入、子どもや高齢者を抱える社員のサポート(TAL Family Program)などに加え、昨今オーストラリアの社会問題になっているメンタルヘルスの理解を深めるための社内イベント(World Mental Health Week)や文化的なダイバーシティを啓蒙する社内イベント(World Cultural Day)を開催するなど、ダイバーシティ&インクルージョンにも積極的に取り組んでいます。



World Cultural Day



[▶ ページの先頭へ](#)

## パニン・第一ライフ

2013年10月、当社はパニンライフおよびその親会社であるパニンインターナショナルを当社の関連会社としました。また、同年11月にパニンライフはパニン・第一ライフ(PT Panin Dai-ichi Life)に社名変更しました。

パニン・第一ライフは現地有力金融グループであるパニングループに属する生命保険会社であり、個人代理人チャネル、銀行窓販チャネル、直販チャネルなど複数のチャネルを有し、販売チャネルの分散を図りながら足下の実績を着実に伸ばしています。パニン・第一ライフの収入保険料は前年度比で45.7%増加し市場平均の成長率を上回ったことに加え、業界ランキングも2009年の15位から2013年には11位へランクアップするなど、インドネシア市場でのプレゼンスを拡大しています。

また、パニン・第一ライフは社会貢献活動に力を入れており、2013年には、パニン・第一ライフの社員・個人代理人・お客さまを中心とした団体献血イベントを開催するとともに「糖尿病の予防」をテーマにしたセミナーを開催するなど、インドネシア社会の健康増進に貢献しています。また、2014年には、シナブン火山噴火およびケルッド火山噴火の被災者を支援するために、パニン・第一ライフの社員・個人代理人を中心に募金イベントを実施し、集まった寄付金を被災地に寄贈しました。



献血イベント



火山噴火被災者支援

[▶ ページの先頭へ](#)

## スター・ユニオン・第一ライフ

現地大手国有銀行2行との合弁生命保険会社であるスター・ユニオン・第一ライフ(Star Union Dai-ichi Life Insurance Company Limited)は、2009年2月に営業を開始し、日本の生命保険会社として初めてインドの生命保険事業に進出しました。

合弁パートナーである現地大手国有銀行2行を通じた保険販売を主力としており、開業5年目となる2013年度の換算収入保険料は7,375百万ルピー、初年度保険料の業界ランキングでは民間生命保険会社23社中10位となっています。

スター・ユニオン・第一ライフでは、様々なダイバーシティの取組みが行われており、多様な人材がそれぞれの分野におけるプロフェッショナルとして活躍しています。特に近年、女性の活躍は著しく、2014年3月末時点で、内勤職においては、女性が前年同期比51%増加、うち中級管理職では同92%増加しました。また、個人代理人においても、女性が全体の約3割を占め、営業オフィスによっては半数以上を占めるなど、女性の登用に力を入れています。

この他にも、2013年3月に深刻な干ばつ被害に見舞われたマハーラーシュトラ州にあるモウプリ村(ムンバイから東に約450キロの距離)に対して、野菜や米などの食料及び水の無償提供を実施するなど社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



独立記念日における社内イベント



モウプリ村支援

[▶ ページの先頭へ](#)

## オーシャンライフ

2008年7月、オーシャンライフと、当社出資および業務提携を行うことで合意し、同年関連会社化を実現しました。2012年7月には非公開株式会社から公開株式会社へ組織変更したことに伴い、OCEAN LIFE INSURANCE PUBLIC COMPANY LIMITEDに社名変更しました。

オーシャンライフとは業務提携以降、個人代理人の営業力強化など、企業価値向上に向けた協働取組を継続的に実施しており、2013年度における収入保険料の業界ランキングは24社中8位となっています。

オーシャンライフは2011年の記録的な洪水により被災した子供たちを支援するため、継続して小学校への事務用品寄贈や義援金の寄付などを行っています。また、2012年に発生したフィリピンでの台風被災者への義援金寄付や会社を挙げての献血活動実施など、多くの社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。あわせて、オーシャンライフでは、生命保険事業に係る人材育成の観点から、当社と協力してインターンシップ生の受入れを行い、実践的な教育の場を大学生に提供しています。3年目となる今年は2名の大学生が同制度を活用し当社出向者と共に働いています。



献血活動



インターンシップ生の受入れ